

■日本燃焼学会創立50周年記念特集■

再録：燃焼研究第66号(1984) 26-28

燃焼研究と私

矢木 栄

日本燃焼研究会より、「燃焼研究」発刊号記念に研究会発足及び機関誌発刊当時のことを書けとの依頼がありました。私も当時その推進役をつとめて居りましたので、思い出すまゝ書綴りたいと思います。

初めには順序として、私の研究課題としての“燃焼研究”，次には発刊機関誌“燃焼研究”ならびに日本燃焼研究会の発足事情を述べて見たいと思います。

燃焼研究と私

私も40年前頃から燃焼研究を始めて居りました。その題目などは次のようなもので、燃焼の工学的取扱いのものでした。

- i) 輝焰(炎) — Luminous Flame — 研究 工業化学誌 昭和12年 p90, 98, 263
- ii) セメント回転窯の燃焼と伝熱 工業化学誌 昭和15年 p792
- iii) 混流(乱流)拡散の研究 工業化学誌 昭和18年 p608, 821
- iv) 焰(炎)の長さに就て 工業化学誌 昭和18年 p873
- v) 機関車の燃焼及びそのボイラ解析 工業化学誌 昭和26年 p63
- vi) Problems of Turbulent — Diffusion and Flame Jet
IV th International Symposium on Combustion 1952 p771
- vii) Studies on combustion of Carbon Particles in Flame and Fluidized Beds
V th International Symposium on Combustion 1955 p231
- viii) Radiation from Soot Particles in Luminous Flames
VIII th International Symposium on Combustion 1961 p288

日本燃焼研究会と私

米国のCombustion Instituteと私との関係は1937～1939年MITでの留学(Prof. Hottelの研究室), 1939年2月, ピーツバーグのDr. Lewis(当時はBureau of Mines)らとの会見に始るでしょう。其後は第4回燃焼国際会議(1952年MITで開催)論文提出時でした。当時私は日本学術会議の燃焼研究連絡委員会(研連)に席をおいて居りましたので、政府出張旅費の補助獲得に努力して居りました。

昭和28年11月に研究連絡委員会(研連)に関連する形で「燃焼研究懇話会」をつくり海外派遣などを討議いたし、昭和30年5月には懇話会の臨時総会を開き、「日本燃焼研

究会」の発足を決め正会員(37名)維持会員社(18社)一括弧内はチャターメンバーという形になりました。法人格はなく、任意団体ではありますが、日本学術会議(研連)と関連をとりつゝ、業界の援助も受けられる形となりました。当時の役員は会長矢木、幹事は疋田・熊谷ほか5社で、その年開かれた第5回国際会議(Pittsburg Univ. Pittsburg Pa USA)の論文提出ならび代表派遣などを討議しました。

日本燃焼研究会は昭和31年(1956)1月に研究抄録誌発刊、昭和34年(1959)12月には待望の会誌「燃焼研究」の発行開始となりました。

日本燃焼研究会はCombustion Instituteとの連絡、国際会議への論文提出、代表派遣、旅費補助、出張報告会、会員研究発表会、見学会など順調な発展をして居ります。

燃焼国際会議の開催には米国側も種々の便宜をはかってくれ、当時の日本の困難な事情を理解して、軍の好意をとりつけ、MATS使用の便宜もとりつけてくれた。MATSはMilitary Air Transportation Serviceで第8回PasadenaのCITには矢木・熊谷・辻・木村は立川・ウェク・ハワイ・米カリフォルニアTravisなどの米軍基地使用で運営されていた。またMATSは第9回Ithaca Cornell Univ.にも手配してくれました。

以上燃焼研究会発足当時の思出を書綴りましたが、こゝでシンポジウムの原点に立かえて見たいと思います。日本ではシンポジウムは論文発表だけの感ですが、外国では地中海時代の「シンポ」の名残りで楽しく飲み食しながら“楽しむ”があります。東京の燃焼シンポでも講演は都市センターで質素なものでしたが、プリンスホテルなどで楽しいものでした。(昭和49年1974年8月25～29日)

矢木 栄 先生 御略歴

- 明治37年(1904)7月26日生
- 昭和3年 東大工学部応化卒
- 昭和18年6月 東工大教授兼東大教授
- 昭和21年9月 東大教授兼東工大教授
- 昭和40年3月 東大停年退職
- 同年5月 千代田建設(株)取締役副社長
東大名誉教授
- 昭和30年5月 日本燃焼研究会会長
～40年
- 昭和52年12月 千代田化工建設(株)取締役副社長退任